

東幸弘 学位論文審査要旨

主査 汐田剛史
副査 岡田太
同 原田省

主論文

Lipopolysaccharide promotes the development of murine endometriosis-like lesions via the nuclear factor-kappa B pathway

(リポポリサッカライドはNF- κ B経路を介してマウスの子宮内膜症様病巣の進展を促進する)

(著者：東幸弘、谷口文紀、中村和臣、柳樂慶、Khine Yin Mon、木山智義、上垣崇、伊澤正郎、原田省)

平成29年 American Journal of Reproductive Immunology DOI:10.1111/aji.12631

参考論文

1. 妊娠39週に急性心筋梗塞と診断し帝王切開で生児を得た一例

(著者：東幸弘、荒田和也、経遠孝子、原田崇、岩部富夫、原田省)

平成25年 現代産婦人科 62巻 269頁～273頁

2. Analysis of pregnancy outcome and decline of anti-Müllerian hormone after laparoscopic cystectomy for ovarian endometriomas

(腹腔鏡下卵巣チョコレート嚢胞摘出術後の妊娠成績と抗ミュラー管ホルモンの解析)

(著者：谷口文紀、坂本靖子、藪田結子、東幸弘、平川絵莉子、柳樂慶、上垣崇、出浦伊万里、秦幸吉、原田省)

平成28年 The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research 42巻
1534頁～1540頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、細菌性エンドトキシンであるLPSの少量反復投与によって慢性骨盤炎症を模した子宮内膜症モデルマウスを作製し、子宮内膜症病巣形成に及ぼす影響について検討した論文である。LPSがNF- κ Bの活性化を介して炎症性サイトカインや血管新生因子等の発現および免疫担当細胞の集積を促すことにより、子宮内膜症の病変を増加させることを示した。本研究成果により、NF- κ Bを分子標的とした新規薬剤の開発が期待される。本研究は新知見に富み、その成果は生殖内分泌学研究に貢献するとともに、学術の水準を高めたものと認められる。